

開催協議会名	令和8年第2回 大田警察署協議会		
開催日時	令和8年6月26日（金）午後3時から午後4時30分まで		
出席者	協議会委員	5人	
	警察署	8人 （署長、副署長、会計課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、総務係長）	
会議・協議	署長からの説明	説明事項	自転車への交通反則通告制度（青切符）の導入
		説明概要	1 自転車への青切符導入の背景 (1) 自転車関連事故件数等の推移 ア 令和元年以降、自転車関連事故は約7万件で推移 イ 自転車と歩行者の事故件数は増加傾向 ウ 死亡・重傷事故のうち、約4分の3は自転車側にも法令違反あり (2) 自転車の交通違反検挙件数の推移 自転車の交通違反の検挙件数は近年急激に増加 (3) 青切符導入の必要性 青切符導入により手続き的な負担を軽減し、より実効性のある責任追及を行い、自転車の事故抑止を図る必要あり 2 手続き (1) 青切符導入後の手続き ア 16歳以上の自転車利用者が対象 イ 一定の交通違反（113項目）が対象 (2) 青切符導入前と導入後の違い 青切符による手続きは、出頭や裁判等が不要になり前科も付かない 3 青切符制度（交通反則通告制度）に対する取組み (1) 制度導入前の取組み 市内の高等学校・中学校全生徒に向けた自転車青切符に関するチラシを配布 (2) 制度導入後の取組み ア 春の全国交通安全運動中の早朝街頭活動に併せた啓発活動

		イ 自転車通学生対象の鍵掛け運動に併せたＪＲ大田市駅・仁摩駅における啓発活動 ウ 自転車マナーアップ運動期間中における、大田市立第一中学校周辺を重点とした自転車街頭指導 エ 外国人雇用企業に対するサイクリング・セーフティー・リーダー委嘱等 4 自転車による交通違反の検挙状況 (1) 4月 ア 県内 (ア) 青切符12件（うち、いずれも「ながらスマホ」） (イ) イエローカード216件（うち、並走86件、一時不停止48件等） イ 大田市内 (ア) 青切符による自転車の検挙はなし (イ) イエローカードは、右側通行、二人乗り等の違反に対して交付 (2) 5月 ア 県内 (ア) 青切符17件（うち、いずれも「ながらスマホ」） (イ) イエローカード364件（うち、並走103件、一時不停止120件等） イ 大田市内 (ア) 青切符による自転車の検挙はなし (イ) イエローカードは、並走、信号無視等の違反に対して交付 5 自転車関連事故の発生状況 (1) 県内の状況 (2) 大田市の状況
	答申（意見等）	1 自転車の事故が減らない現状と取り締まり強化の必要性について説明があり、今までの刑事手続に青切符が導入された経緯が分かった。 2 違反を認めた場合の手続きの流れ及び検挙件数の推移についての理解できた。 3 高校生が違反するとその親に反則金の支払

		いが生じることから、制度の周知を更に行う必要性を感じた。 4 16歳は高校1年生になるが、同じ1年生で同じ違反をした場合、一方は口頭注意でもう一方は反則金の支払いをするという不公平感がある。 5 高校生のヘルメットの着用率が低いことから校則化の必要性を感じた。
署長からの 諮問	諮問事項	特殊詐欺被害防止に係る超音波スピーカー
	説明事項	1 島根県の詐欺被害状況（令和7年12月末、暫定値） ア 特殊詐欺118件 金額 約5億9,442万円 イ SNS型投資ロマンス詐欺70件 金額 約4億9,137万円 2 特殊詐欺被害に遭っている人の心理状態 心理的視野狭窄により他の解決策が見えなくなる。 3 特殊詐欺と心理的狭窄の関係性 急いでお金を払うことだけを考え、それ以外の選択肢は考えられなくなる。 4 超音波スピーカーの効果 心理的狭窄状態が弱まり、音声情報が入ってくる可能性が高くなると予想されている。 5 山陰合同銀行ATMへ超音波スピーカーを設置 被害の未然防止と効果的な広報が期待される。 6 設置後の検証 立命館大学などの教授とともに効果検証予定。
	答申（意見等）	1 キャッシュレス化に伴いATMを利用しない方への詐欺防止対策の必要性が今後の課題となると思った。 2 非常に良い取組だと思うので、他の金融機関のATMにも設置してほしい。 3 通話は、耳元で行われ心理的に詐欺に遭い

		やすくなるというが、超音波スピーカーも耳元から聞こえてくるので冷静さを取り戻させてくれる。大田市以外にも超音波スピーカーが広がっていけば良いと思う。 4 大田署の取組を大田市の公式LINEを利用して周知すると、一層認知されると思う。
写真		【交通課長からの説明】 【超音波スピーカーの紹介】